

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	がくどう 楽童ほうぶ		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 22日 ～ 2025年 10月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	2025年 10月 14日 ～ 2025年 10月 23日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	全てのチェック項目において、7割以上の方が「はい」を選択してくださり、バランスがとれた支援を行っているという評価をいただいた。特に「保護者への説明等」「満足度」は平均8割以上の方が「はい」を選択してくださり、高い評価をいただいた。職員のミーティングや保護者への説明を丁寧にやっている。	子どもの社会性や自主性を育み、ソーシャルスキルやライフスキルを習得できるよう取り組んでいる。特色として、地域の方々と交流したり体験を広げたりする活動や、選択や決定の機会を意識的につくっている。地域自立支援協議会、地域活動協議会等への参加をしたり、学校と情報を共有したりして、地域連携に努めている。	保護者とのコミュニケーションをより丁寧に行い、信頼関係を築いていく。保護者と子ども、それぞれのニーズを聴きとり、子どもの最善の利益を大切にして支援していく。
2	個別支援計画の作成において、保護者への聞き取りと子どもへのアンケート（聞き取り）を行い、職員で話し合いながら案を作成している。計画作成後は、保護者に説明を丁寧にやっている。	個別支援計画作成の際に、保護者面談を丁寧に行い、子どもの思いも聞き取り、計画作成にあたっては、職員ミーティングで意見を出し合っている。	個別支援計画作成においては、現在の取り組みを継続していく。個別支援計画の内容に沿った支援が行えるよう、職員間で計画内容を共有して、子どもへの対応をしていく。
3	環境整備（生活空間が清潔で心地よく過ごせる工夫がされて、子どもの活動に合わせた空間となっている。	放デイを運営するために設計しているので、子どもが楽しく安全に過ごせる工夫がしてある。音に敏感な子どもに配慮して天井に吸音効果のある材料を使ったり、クールダウンができるよう隠れ家的な場所をつくらしたりして、子どもが居心地よく過ごせる工夫をしている。	子どもの活動に合わせた空間となるよう、パーティションの利用や視覚支援等、更に改善をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の配置（職員体制）を強化していく必要がある。	基本の職員配置に加えてパートを2名以上配置しているが、各々の「やりたい」気持ちを大切に、手厚い対応をしているため、職員配置が十分でない状況となっている。個別サポート加算（Ⅰ）がついていない児童に対しても、職員が個別にサポートしているケースが少なくない。	子どもの主体性を育むための支援の質を低下させないために、有資格者の求人を行っていく。
2	「子どものことを十分に理解し、子どもの特性に応じた専門性のある支援が受けられていると思うか」の質問に、「はい」と答えた方が7割にとどまった。	職員は研修やミーティングを重ね、子どもに応じた丁寧な支援を行ってきたつもりであったが、保護者の期待に十分に答えられていなかった。一方で、自由度の高い遊びの時間を多く取って子どもの自主性を育んだり、子ども同士のかかわりの中から社会性を育んだりしようとしているため、目に見える成果がわかりにくいこともある。	職員研修をより充実させ、職員ミーティングでも子ども理解の共有や支援内容の話し合いを増やし、パートの職員も含めて、支援の質を向上させる。 保護者とコミュニケーションを取り、当事業所の目指していることを伝え、より信頼関係を築いていけるように努める。
3	非常時等の対応や避難訓練の内容が保護者に十分に伝わっていない。	活動の様子を毎月の便りに写真入りで報告しているが、具体的な活動内容を伝えることができていないため、避難訓練の詳細が伝わっていない。 マニュアルを玄関に設置して、自由に読めるようにしているが、保護者にあまり知られていない。	避難訓練などの活動内容をさらに詳しく報告していく。また、報告だけでなく、計画もお知らせしていく。 防災に対してだけでなく、防犯に対する取り組みも充実させていく。

公表

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

事業所名 がくどう
楽葉ほうぶ

公表日 2025年11月19日

利用児童数 32

回収数 26

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	23	2	1		広いスペースや高い隠れ家低い隠れ家等、各々が好きな場所で好きな遊びを見つけれられるスペースが多いと思う。	放デイを運営するために様々な工夫を凝らした建物だが、今後、より一層スペースの使い方を工夫していく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19	5		2	・いつも職員が一人ついてくださっているようで手厚く支援していただいているのがわかります。・日によってばらつきがあると思います。	1対1対応のお子さんが多い時は、職員が足りない状態になる日があるので、パート職員の調整を行っていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	25	1				視覚支援をより子どもにわかりやすく工夫する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	24	2				毎朝、職員が掃除をして清潔にし心地よく過ごせるよう努めているが、活動に合わせた空間となるように改善する。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20	3	1	2		ケース会議の開催を増やし、職員研修の充実にも努め、支援の質の向上を図る。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	24	2				支援プログラムと支援内容を照らし合わせ、職員ミーティングで話し合いをする。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	24	1		1		計画の検討会議で、子どもと保護者のニーズを職員で共有し課題を出し合い、多角的に子どもを捉え意見交換をする。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	23	1		2		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	24	1	1			パート職員を含めた職員全員で支援計画の内容を共有して支援していく。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	23	2		1	ここ1～2年は夏休みのスケジュールが事前に決められており、充実しているように感じます。	
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	19	3	1	3	他の放デイより地域交流のイベントが多いように感じます。	近くに児童館がないが、公園で地域の子どもたちと一緒に遊んだり、イベントで触れ合ったりする機会がある。保護者への周知を丁寧にする。
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	25		1			
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	26				聞き取りや計画説明等の面談を保護者の都合に合わせて日程が設定され助かっています。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	24	1		1	もっと話し合う機会や時間が欲しいです。	・保護者向けの研修会を開催する。 ・今後、保護者の希望があれば、ペアレント・トレーニングの開催を実施する。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	22	1	2	1		保護者と丁寧にコミュニケーションを取っていくようにする。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	24	1	1			保護者と丁寧にコミュニケーションを取っていくようにする。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	23	1	1	1		保護者と丁寧にコミュニケーションを取っていくようにする。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	20	2		4		保護者会を定期的に開催しているが、参加者がとても少ない。今後、きょうだい児さんの交流の機会も作っていく。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	23	2	1			毎月のお便りに、相談や相談が必要な場合、遠慮なくお知らせくださいと、度々書いているが、申し入れがほとんどないので、周知方法を検討する。

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	24	2				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	25			1		毎年、自己評価の結果を保護者に配布し、HPにも掲載して広く周知している。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	24	1		1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	2		4		マニュアルは整備し、施設玄関に閲覧できるように置いているが、なかなか見る機会がないと思い、簡易版の対応マニュアルを各家庭に配布し、玄関にも掲示している。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20	3		3	・どのように訓練が行われているかわからない。 ・クリスマス会の時に地震想定のアナウンスがあり大事と思いました。 ・防犯についてわかりません。	定期的に避難訓練等を行っているが、保護者の皆さんに内容報告を丁寧にする。防犯の訓練も実施していく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	23	1		2		安全計画の作成をして職員で話し合いを継続しているが、保護者への周知ができていないため、周知をしていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	24	1	1		利用して数年経ちますが、一度の怪我がないことに感謝しています。また相談員さんが看護師なので心強いです。	事故発生時、速やかに保護者と連絡を取り合い対応し、収束後、行政に報告をあげているが、保護者への連絡説明が充分であったかどうかを検証する。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	24	1		1	大好き過ぎてお休みに日に行きたいと言ひ合いになるくらいです。	安全計画の推進やヒヤリハットの対応等を実施しているが、継続して、取り組んでいく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	23	3				子どもが楽しみながらライフスキルやソーシャルスキルを習得できるよう、継続して工夫していく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	23	1	1	1		実施した保護者からの評価では、具体的な保護者の不満点がわからないため、定期的に懇談などを実施して、ニーズを明確にしていく。

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
がくどう 楽童ほうぶ		2025年 11月 19日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	利用定員10名に対し、約55㎡のブレイルームがあり、他に個室や相談室等も確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	2	3		制度上必要な職員数に加えて、非常勤職員も配置しているが、1対1対応が必要な子どもが多い日は、職員が足りていないと感じる職員が多い。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	視覚支援等を行っている。バリアフリー化を行い、音が響かないように吸音材の天井等も使っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	毎朝、職員で清掃をし清潔を保っている。子どもが楽しんだり落ち着いたりできる様々な工夫を凝らした建物である。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0		
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	0		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	保護者向け評価を職員全員で共有し、改善点を出し合っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	会議を定期的に行い、意見交換をしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	0	第三者評価は実施していないが、外部委員や法人社員をメンバーとした運営委員会を実施し職員にアドバイスいただいている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	研修会を受講する機会や法人内での研修会を多く行っている。	
適 切 な 支 援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	正職員全員で支援プログラム作成の会議を行って作成し、HPに公開している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	子どもと保護者からニーズを聴きとり、職員会議で共有し課題を出し合い、計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	正職員で計画作成の会議を実施し、子どもの最善の利益を考えながら検討をしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	朝のミーティングで、当日利用の子どもの支援計画を共有している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	定例の職員ミーティングで案を決め、朝のミーティングで活動内容を確認している。	

へ 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	保護者からのニーズをもとに、職員ミーティングで個別活動と集団活動を検討し、計画案作成をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	毎朝、ミーティングを行い、確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	毎夕、パート職員の振り返りミーティングを行い、翌朝に職員ミーティングで共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	個々の活動記録、全体の日報を記録しており、検証・改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	子どもが自分で選ぶ、職員と一緒に決めるなど、自己選択や決定の体験ができるよう意識をして活動している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	ケース会議には子どもの状況をよく知るスタッフが参加するようにしており、職員ミーティングでその内容を共有している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	連携して支援を行う体制は作っていないが、必要に応じて、学校、病院、障害福祉等の関係機関と連携して支援している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	0	5	相談支援事業所の相談支援専門員から情報を得ることはある（保護者の希望があった場合や、保護者の許可を取った場合）	保護者からの希望がなかった。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	0	ワタシ×ミライワークショップを開催して、引継ぎをしている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	5	毎年、エルムおおさかに訪問を依頼して、アドバイズは受けている。	近くに児童発達支援センター等、スーパーバイズや助言をしてくれる施設がない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	0	近隣に児童館などがないが、近くの公園遊びの際は、近隣の子どもたちと一緒に遊んでいる。地域向けイベントも開催。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	0	本会、こども部会に参加し、事業所連絡会にも参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	支援計画の作成の際、モニタリング時と計画説明時に面談を行っている。日々、夕方に保護者がお迎えの際に話している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	0	以前、保護者が参加できる研修会を開催していたが、参加者が少なかったため、今後に向けて検討をしている。	家族からのニーズがあれば、ペアレントトレーニングを実施していく。保護者に向けた研修会を再開する。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	保護者に対してのモニタリングに加えて、子どもの希望票も作成して聞き取りをしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機を設ける等の支援をしているか。	5	0	保護者交流会や保護者が参加できるイベントの開催をしている。	保護者の参加が多くないため、どのようなニーズがあるかを聞く必要がある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	個人情報の取扱いに注意して苦情の対応を行っている。再発防止のため職員間での共有と虐待防止委員会での報告をしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	0		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	各マニュアルは玄関に設置して、いつでも見られるようにしている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0		定期的に訓練をしているが、保護者への報告をより丁寧にする必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	各家庭に安心安全マニュアル（A4・1枚）を配布している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	事業所内での共有に加え、虐待防止委員会で報告しアドバイス等をもらっている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0		